

知財実務の分水嶺：化学構造式生成AIの進化 2025 vs 2026

化学知財分野における生成AIの劇的な質的転換（テキスト処理から構造式認識へ）
ハルシネーションの克服とIP-AXの実現

2025年：テキスト中心の普及期

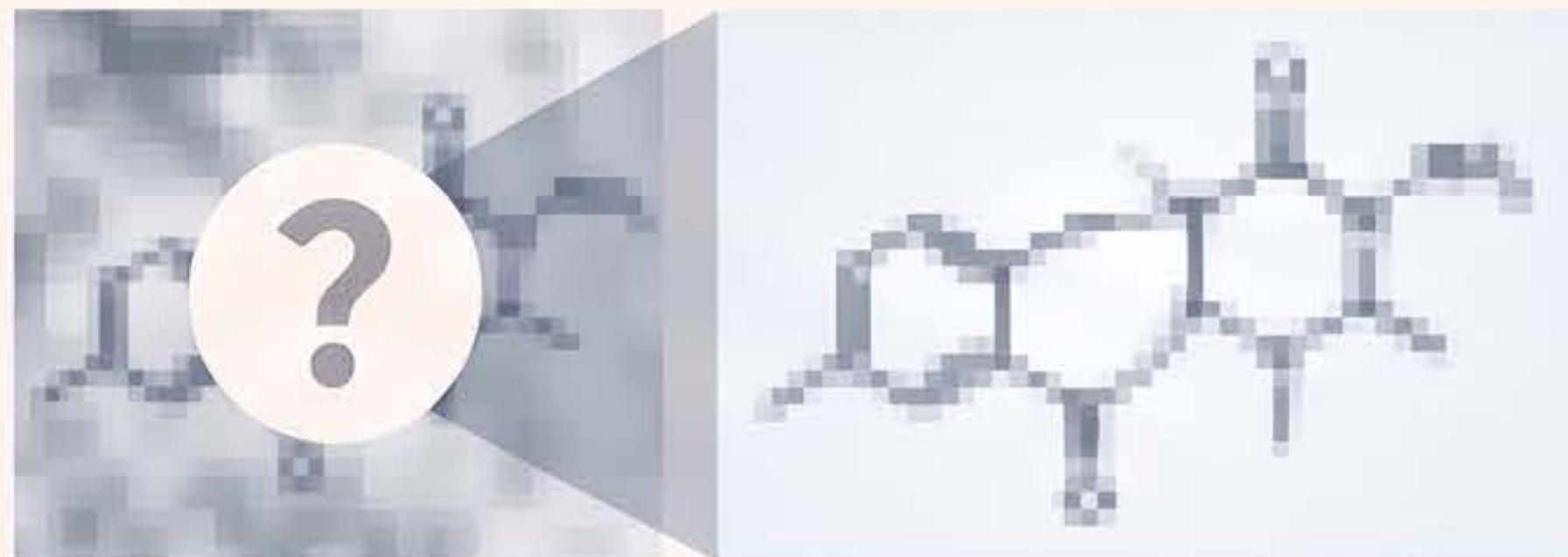
文字列表記の揺れ吸収が限界

IUPAC名や慣用名の正規化・翻訳支援など、言語処理が中心。



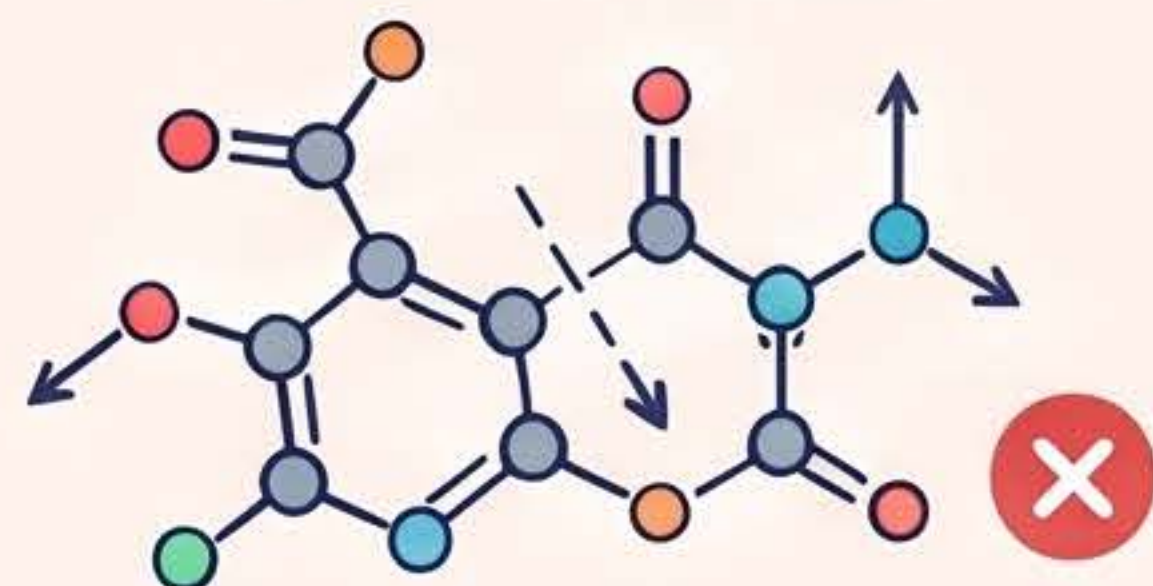
構造式データの「空白地帯」

画像を幾何学的に解釈できず、構造式の直接処理は未実装。



ハルシネーションの頻発

構造式の文字変換時に、原子価の絡繰や立体配置の欠落が発生。

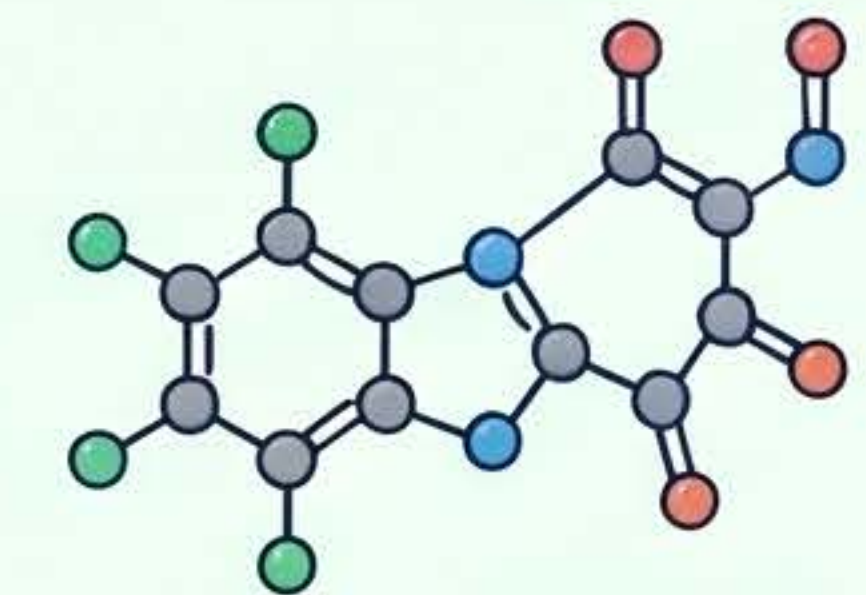
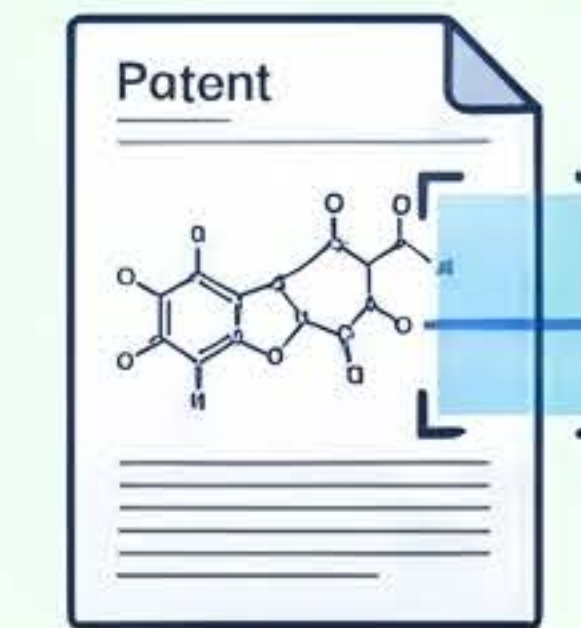


処理対象: テキスト・コード（文字列）
信頼性担保: 人手による全量チェック
動作環境: クラウドへの濃洩懸念

2026年：マルチモーダル・エージェントの成熟期

構造式画像の直接認識・復元

OCR技術で公報画像をマシンリーダブルな分子グラフへ高精度に変換。



根拠に基づいた「ハルシネーション排除」

150年の精査データと直結し、全ての回答に出典リンクを付与。



IP-AXワークフローの確立

検索から明細書ドラフト作成までを一策通貫で統合し、時間を短縮。



検索



分析



明細書ドラフト